

起業家が 徳島の未来を明るくする

最近、そごう徳島店の閉店や新型コロナウイルスの流行など、暗い話題が目立ちます。そうした中、徳島の経済域活性化につながる明るい話題として注目されるのが、メディアドゥホールディングスと県内企業4社による「一般社団法人徳島イノベーションベース」(TIB)の設立です。TIBでは、起業家や起業を目指す学生、社会人らアントレプレナーシップ(起業家精神)を持つ人たちが、先輩起業家の助言を得ながら、仲間同士のワークショップなどを通じてお互い切磋琢磨します。いわば「起業家が起業家を生み育てる」取り組みと言えます。TIBのコワーキングスペースは、そごう徳島店と同じアミコビルの9階に設けられる予定です。

この取り組みを主導するのは、徳島経済101号(2018年秋号)の巻頭対談(「電子書籍業界の風雲児が挑む故郷木頭の再生」)で、会社経営にかける思いと故郷木頭や徳島の地域おこしのことを熱く語っていただいた、メディアドゥホールディングスの藤田社長です。

藤田社長は、その後順調に会社の業績を伸ばすとともに、徳島における地域活性化の取り組みを加速されています。たとえば、木頭ではグランピング施設(自然環境の中でホテル並みの快適なサービスが受けられるキャンプ施設)であるCAMP PARK KITOが2019年春にオープンするなど、4PARK構想が着々と進められています。また、「5年以内に100人の雇用を生み出す」ことを目指して徳島市に設立したメディアドゥテック徳島は、3年ですすでに85人の雇用を生み出しています。

さらに、藤田社長は、若手起業家で作る世界的ネットワークの国内組織「EO Tokyo」の会長を務め、起業家育成のノウハウや有力な起業家のネットワークも持っておられます。

このように、有言実行で起業家マインドにあふれる藤田社長が本気になって取り組むTIBから、目論見通り「10年間で100人の起業家」が育てば、徳島の経済は大いに活気づくでしょう。

起業家育成については、徳島大学も積極的に取り組んでいます。徳島大学発ベンチャー企業の中には、世界的に注目が高まる昆虫食(コオロギ)関連のグリラスや、画期的なゲノム編集技術を持つセツロテックなど、市場性や技術力のある、将来が楽しみな企業が少なくありません。

こうしたTISや徳島大学の取り組みの中から、将来大塚グループや日亜化学工業、メディアドゥホールディングスに続く企業が誕生するかも知れません。成果が楽しみです。